

# 500人態勢で会場運営

## 改善重ね、システム完成

到着から終わるまで30分付近のいすに自由に座つた。でも残つてミニーティングした。だからなかつた。大館市のめ、番号を呼ばれ移動する」と話す。説導や動線など細かに「二プロハチ公ドームで一日最も時間がかかり、混雑を招く修正を重ね、「一日400人規模で行われた。次回はスタッフが説導0人規模より、7500人の新型コロナワイルスワクチンし、一人受け付けをするびに前へ前へと席を動く形に変化した。

午前7時、開場2時間前、地元の薬剤師が準備を始め、会場を整備する市民は、そのスムーズな流れに驚きながら感想を語つた。

初日、到着した市民は受け取った。長は「毎回、職員が夜10時まで作業を終えたり、翌朝5時まで作業を終えていた。」

### 大館市コロナワクチン

中

毎回、県薬剤師会大館北秋田支部や市内病院の薬剤師、薬局の事務から25人が参加。

使用した采ファイザー社製のワクチンは保管温度などを管理法をみんなで考えた」と話す。

が難しく、高橋敏子支部長はす。

「安全で間違ひなく方

「安全で間違ひなく方

が最終的に列す前へ移動する方式に落ち着いた。

市は接種対策室の安保係

市は医療機器製造の二プロ

（本社・大阪市）が開発し、秋田看護専門学校と秋田職業



ワクチンの調整作業をする薬剤師。右側のホワイトボードで各ブースへの配達量を確認した（二プロハチ公ドーム）

各種に監督役」を置き、計測と目標で実験した。各フロアと高橋支部長は誇り無線で連絡を取り、準備。「市民のためにできるこ

る」となく配達。注射器を入れるとともに、薬剤師が努力し合つたトレーに番号を振り、希望順。7回の注射器にも助

けられただ」と振り返る。やりとりし、安全面も最大限に考慮して、1時間当たり70人ペースで進めたが、「疲れる」との苦情が、最終的に列す前へ移動する方式に落ち着いた。

市はスムーズで、人の流れをも残さず使い切るため、「合わせ」は時間をかけ慎重に行つた。

午前7時、開場2時間前、地元の薬剤師が準備を始め、職員が多くて一日で総勢500人で用意した注射器を一本一人で当たつた。総合病院は午前、午後各30人の医師を投入。診療所の医師は予診医を担当し、接種後に備え、救急

命士が待機した。

大館工場などで製造された」が、最初に「列す前へ移動する方式に落ち着いた。」

大館市は「毎回、職員が夜10時まで作業を終えたり、翌朝5時まで作業を終えていた。」

が、最終的に新たな注射器を9万本そろえ、調整作業の効率化を図つた。

「大きなミスはなく、全国は難しかった」と明かした。

ドーム接種の舞台裏